

# 1 令和4年度普通会計決算の概要

## (1) 決算規模

令和4年度の十勝管内市町村の普通会計の決算額は、次のとおりである。

歳入 2,690億97百万円(前年度 2,812億7百万円)

歳出 2,609億44百万円(前年度 2,715億55百万円)

令和3年度と比較すると、歳入は121億10百万円(4.3%減)、歳出は106億12百万円(3.9%減)とそれぞれ減少している。

この伸び率は、令和3年度の対前年度伸び率(歳入5.4%減、歳出6.2%減)と比べると歳入は1.1ポイント上回り、歳出は1.9ポイント上回るという状況である。

## (2) 決算収支

令和4年度の歳入歳出差引額(形式収支)は、81億53百万円の黒字となっている。

形式収支から繰越明許費などの翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた実質収支は、73億24百万円の黒字となっている。

なお、実質収支は、前年度に引き続き、管内全市町村で黒字となっている。

令和3年度の実質収支を差し引いた単年度収支は、4億2百万円の赤字となっている。

## (3) 歳入決算の状況

令和4年度の歳入決算額の主な内訳は、地方交付税806億29百万円(構成比30.0%)、地方税482億62百万円(構成比17.9%)、国庫支出金400億48百万円(構成比14.9%)、地方債163億79百万円(構成比6.1%)となっている。

地方税、地方譲与税、地方交付税等を合算した一般財源は、1,695億72百万円となっており、前年度(1,682億66百万円)と比べると、1.0%の増となっている。

## (4) 歳出決算の状況

### (ア) 性質別歳出の状況

令和4年度の性質別歳出決算額は、義務的経費(人件費、扶助費、公債費の計)1048億36百万円(構成比40.2%)、投資的経費(普通建設事業費、災害復旧事業費、失業対策事業費の計)315億79百万円(構成比12.1%)、その他経費1,245億29百万円(構成比47.7%)となっている。

義務的経費は前年度と比べると、40億円、3.8%減少しており、義務的経費のうち人件費は、2億84百万円、0.8%増加しており、扶助費は45億1百万円、10.0%減少しており、公債費は1億18百万円、0.4%の増加となっている。

投資的経費は前年度と比べると、144億77百万円、26.7%減少しており、そのうち普通建設事業費が、115億33百万円、27.0%の減少、災害復旧事業費が、56百万円、0.2%の増加となっている。

### (イ) 目的別歳出の状況

令和4年度の目的別歳出決算額は、民生費709億57百万円(構成比27.2%)、総務費388億5百万円(構成比14.9%)、農林水産業費217億77百万円(構成比8.3%)、土木費270億17百万円(構成比10.4%)、公債費274億65百万円(構成比10.5%)、教育費275億8百万円(構成比10.5%)などとなっている。

(5) 経常収支比率の状況

令和4年度の経常収支比率(管内加重平均)は、87.0%となっており、前年度(84.6%)と比べると2.4ポイント増加している。

(6) 地方債現在高

令和4年度末の地方債現在高は、2,390億70百万円となっており、前年度末(2,492億32百万円)と比べると、101億62百万円、4.1%減少している。

(7) 健全化判断比率等の状況

令和4年度決算における十勝管内市町村の健全化判断比率について、実質公債費比率(3か年管内加重平均)は、9.2%となっており、全道平均(除く札幌市)の8.9を上回っている。将来負担比率(管内加重平均)は、1.4%となっており、全道平均(除く札幌市)の17.5%を下回っている。

なお、管内市町村で実質赤字比率及び連結実質赤字比率が発生している団体はない。